

新都市社会技術融合創造研究会 第13回委員会 議事録 骨子(案)

日時:平成19年7月31日(火)9:00~10:30

場所:ぱるるプラザ京都 会議室D

出席者

< 委員 >

大西委員長(京都大学)

樋口副委員長(道建協)、小林副委員長(京都大学)、宮地副委員長(近畿地方整備局)、

喜綿委員(道建協)、小林委員(代理:土工協)、塚本委員(代理:建コン協)、

家村委員(京都大学)、宮川委員(京都大学)、谷口委員(京都大学)、山田委員(大阪市立大学)、

坂野委員(関西大学)、西山委員(京都大学)、岸田委員(京都大学)、

山本委員(近畿地方整備局近畿技術事務所)

< 関係者 >

近畿地方整備局:加藤地域道路調整官、廣瀬交通対策課長、中川道路管理課長補佐

福井河川国道事務所:曾田副所長 京都国道事務所:西海副所長 大阪国道事務所:西嶋施工管理官

阪神国道事務所:三辻副所長 豊岡河川国道事務所:一井副所長

近畿技術事務所:小段副所長、伊藤副所長

プロジェクト関係者:大島助教(既設橋の最適延命化方策の策定に関する研究)

中山幹事(既設橋の最適延命化方策の策定に関する研究)

香川幹事(積雪寒冷地における舗装の耐久性向上及び補修に関する研究)

夏秋幹事(鋼橋の疲労亀裂進展シミュレーション手法の開発とその維持管理への応用に関する研究)

< 事務局 >

近畿地方整備局道路工事課:橋本課長、今井改良係長

(財)道路保全技術センター:辻森、後藤、生田、田口、岡田

議事について

1. 新任委員の紹介

- ・近畿地方整備局道路部長の交代があり、宮地委員が就任される。

2. プロジェクトチームの設立

< 「資料-1 新規プロジェクトチームの設立」に基づきリーダーから説明 >

『既設橋の最適延命化方策の策定に関する研究』リーダー:京都大学 宮川教授 の設立が承認される。

- ・コンクリート・鋼橋を対象とする。
- ・重みをつけた点検・補修を考えたい。
- ・劣化機構などハード面を中心に検討していきたい。
- ・橋梁に特化して考えたい。

3. 平成18年度事業報告

< 「資料-2-1、2-2」に基づき事務局から説明 >

セミナーの開催報告について

- ・開催時期:1月末を目途に検討していく(中間報告として)
:研究が終了したプロジェクトについては、年度明けに別途開催の方向で考える
- ・テキスト配布:webの充実を図っていく

4．平成19年度事業計画

<「資料 - 3」に基づき事務局から説明>

- ・委員会2回の開催（平成19年7月、平成19年11月を予定）
- ・WG1回の開催（時期未定）
- ・第5回新都市社会技術セミナーの開催（平成20年1月を予定）
- ・個別セミナー（プロジェクトチーム毎の成果発表の場とする）の開催（時期適宜）
- ・新しいリーフレットの作成
- ・HPの充実

5．プロジェクトチームの活動報告

<「資料 - 4」に基づき各リーダーから説明>

- 「道路トンネル健全性評価技術の研究」
- 「積雪寒冷地における舗装の耐久性向上及び補修に関する研究」
- 「ITSを活用した道路交通ネットワークの調査・評価手法に関する研究」
- 「ITSを活用したまちづくりのための交通マネジメントに関する研究」
- 「排水性舗装混合物のリサイクル技術の研究」
- 「鋼橋の疲労亀裂進展シミュレーション手法の開発とその維持管理への応用」
- 「景観性に優れたアーチカルバートを用いた盛土構造に関する研究」
- 「道路防災モニタリングネットワークシステムの構築に関する研究」

6．WGの活動報告

<「資料 - 5」に基づき事務局から説明>

- ・今後、ニーズ、シーズのマッチングに向けて調整を図っていく。

7．その他

<「橋梁のコスト縮減構造に関する研究会」より>

- ・プロジェクトの成果を発表する場として、講習会を開催したい。
- ・日時は平成19年10月25日午後、場所は建設交流館グリーンホールを予定している。
- ・運営、費用等については事務局で調整していく。
- ・PRは研究会を通じて行っていく。

<新しいプロジェクトチーム設立の予定>

- ・「舗装用骨材資源の有効利用に関する研究」「道路路面内部構造監視システムの構築に関する研究」
- 「トンネル坑口部付近における騒音予測に関する研究」以上3つのプロジェクトについて、今後設立の予定である。

以上